



クボタ通信

第135期中間

2024.1.1-2024.6.30

特集

クボタのソリューションが拓く、
私たちの未来

2024年9月より 「クボタ株主クラブ」 がはじまります！





真のグローバル企業に向けて、 「One Kubota」の具現化に取り組みつつ、 持続的成長を果たしていきます。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
クボタ通信(第135期中間)をお届けするに当たり、ご挨拶を申し上げます。
当中間期(2024年1月1日~2024年6月30日)の業績につきましては、
下記のとおりとなりました。
なお、第135期中間配当につきましては、1株当たり25円とさせていただきます。
株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますよう
心よりお願い申し上げます。

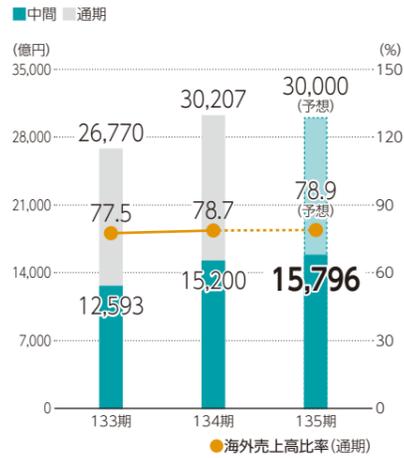
株式会社クボタ 代表取締役社長

北尾 裕一

第135期中間連結業績

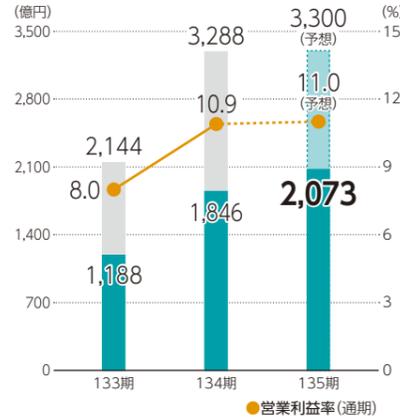
売上高

15,796億円
(前年同期比 +3.9%)



営業利益

2,073億円
(前年同期比 +12.3%)



親会社の所有者に帰属する 中間利益

1,508億円
(前年同期比 +17.1%)



(注) 第134期第1四半期よりIFRS第17号「保険契約」を適用しているほか、第133期においてリース債権に係る貸倒引当金の測定方法を変更しています。また、2022年4月11日に取得したエスコーツLtd.(現エスコーツクボタ Ltd.)に係る暫定的な会計処理が第134期第1四半期において確定しています。第133期に係る経営指標等は、これらの影響を遡及修正しています。

第135期通期連結業績予想

売上高 **30,000**億円 営業利益 **3,300**億円 親会社の所有者に帰属する当期利益 **2,350**億円

1株当たり配当金

【当期の実績】

第135期 (中間)

1株当たり **25**円

支払開始日: 2024年9月2日

※ 期末配当金につきましては、別途ご案内します。

(ご参考: 前期の実績)

第134期

1株当たり **48**円

中間 24円
期末 24円

総還元性向

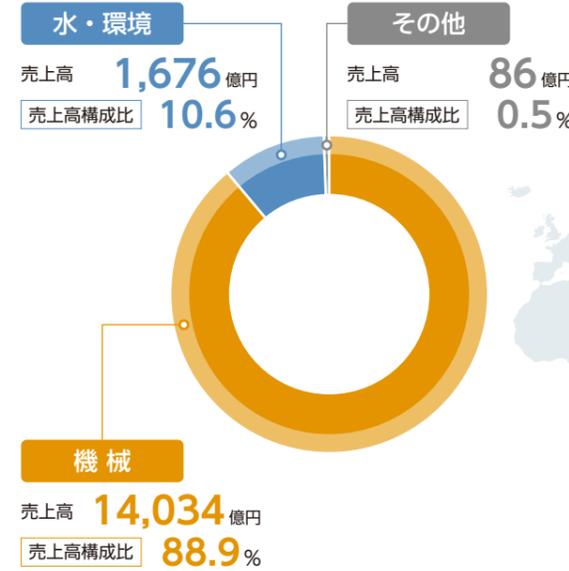
第134期 **36.3%**

当社は中期経営計画2025において総還元性向40%以上を目標とし、50%をめざすこととしています。

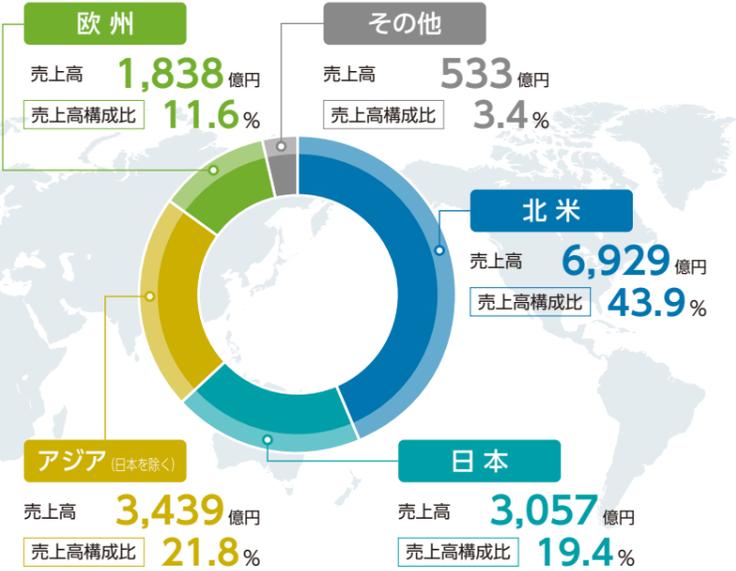
事業の概況

売上高 | **15,796**億円
第135期中間期

事業別 売上高および売上高構成比



地域別 売上高および売上高構成比



機 械

農業機械および農業関連商品、
エンジン、建設機械

売上高 **14,034**億円 前年同期比 **+4.4%**

国 内: 米価は回復傾向も生産コストの増加により農業機械市場が低迷し、販売減少。

北 米: 建設機械は安定した住宅市場やインフラ開発需要を背景に堅調に増加。トラクタは景況感の減速に伴うレジデンシャル市場の低迷、および農作物価格の下落の影響を受け苦戦。

欧 州: 建設機械およびエンジンは、景気減速や投資縮小の影響を受け販売が減少、農業機械もトラクタ市場の需要が弱く販売減少。

アジア: タイは干ばつなどの天候不順に伴う農業機械(日本を除く)の買い控えにより販売は減少したが、市場は回復に転じる。インドは水不足に伴う作物の収穫量減少への懸念、および総選挙に伴う経済活動の停滞により市場全体が縮小し苦戦。

セグメント利益 **2,159**億円 前年同期比 **+8.8%**

■ 主に欧州での減販や、インセンティブコストの増加などは減益要因となったが、為替変動や値上げ効果などで増益。

水・環境

パイプシステム事業、
産業機材事業、環境事業

売上高 **1,676**億円 前年同期比 **+1.2%**

国 内: 産業機材事業は素形材を中心に販売が増加したが、パイプシステム事業、環境事業での販売減少により減収。

海 外: 環境事業での売上増加により増収。

セグメント利益 **131**億円 前年同期比 **+32.6%**

■ 原材料価格の改善や値上げ効果により増益。

その他

各種サービス事業等

売上高 **86**億円 前年同期比 **-15.8%**

セグメント利益 **10**億円 前年同期比 **-11.6%**

当期における、当社の取り組みをご紹介します。それぞれのトピックスの詳細につきましては、各URLまたは2次元コードよりご覧ください。

機 械 スマート農業を目指した新製品の発表

クボタグループがCES®2024で「New Agri Concept」を発表

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240119.html>



New Agri Concept

当社は、2024年1月に米国ネバダ州ラスベガスで開催された世界最大級のテクノロジー見本市CES®2024で、コンセプトマシン「New Agri Concept」を発表しました。本機は自動運転可能な電動車両で、目視による監視を必要とせず、カメラやセンサーで自律的に耕うんや運搬など多様な作業に対応します。また、急速充電機能を備え、バッテリーを10%から80%まで6分以内に充電可能です。ワイン用ブドウ畑をはじめ、農業分野における幅広い用途での利用を想定しています。

開発中の水素燃料電池トラクタを公開

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240328.html>



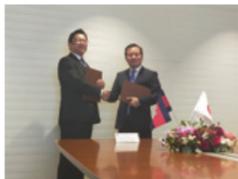
FCトラクタ試作機

当社は、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、バッテリーあるいは水素燃料電池を利用した電動化、燃料として水素やバイオ燃料、合成燃料を使用するエンジンなど全方位の研究開発を進めています。当社の多岐にわたる農機・建機の各シリーズごとに適した出力を得るための技術の1つとして開発を進めるFCトラクタは、走行中に排出するのは水のみでCO₂も排出せず環境性に優れています。現在は国内のほか場で実用化に向けた実証実験を行っています。

水・環境

カンボジア王国から「スバイリエンにおける上水道拡張計画」を受注

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240111.html>



調印式の様子

クボタグループである株式会社クボタ建設は、カンボジア王国から同国南部スバイリエン州の州都スバイリエン市の上水道拡張工事を受注しました。この事業は、スバイリエン市に取水施設、導水管、浄水場、送配水管網を建設するもので、スバイリエン市都市部の水道普及率を約86.7%（現状約49%）まで向上させる計画です。クボタグループは長年培ってきた上水道施設建設の技術やノウハウを最大限活用して、安心・安全な水の安定供給と、住民の生活環境改善に貢献してまいります。

大阪市水道局から「大阪市水道基幹管路耐震化PFI事業」を受注

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240417.html>



当社を含む企業グループが設立した特別目的会社（SPC）「ウォーターパートナー大阪管路株式会社」は、大阪市水道局との間でPFI方式による「大阪市水道基幹管路耐震化PFI事業」に関する事業契約（契約金額は約525億円）を締結し、事業を開始しました。この事業は、市内の浄・配水施設を繋ぐ基幹管路を更新するもので、当社は、水道基幹管路更新の計画・設計・施工までの一連の業務を担います。

本社を「グラングリーン大阪」に移転

詳細はこちら <https://www.kubota.co.jp/news/2024/management-20240522.html>



グラングリーン大阪パークタワー
完成予定図
(提供: グラングリーン大阪開発事業者)

当社は、2026年に本社を、大阪駅北西部うめきた2期地区開発プロジェクト「グラングリーン大阪パークタワー」に移転することを決定しました。新オフィスは国籍や組織などを問わず多様な従業員が集い、交流できる空間を創造するとともに、生成AIなどの先進ICTを活用したワークスタイルの変革に取り組んでいきます。

株主様向け イベントのご案内

今後、イベントへのご応募は
「クボタ株主クラブ」への
ご登録が必須となります。

POINT

詳細は裏表紙を
ご覧ください

1

「クボタの森」体験会

日時：2024年10月26日(土)
場所：山梨県甲州市
内容：保全活動の見学や間伐作業などを体験

2

関東甲信クボタ おれん家農園見学・収穫体験

日時：2024年11月28日(木)、29日(金)
場所：群馬県前橋市 関東甲信クボタファーム
内容：「おれん家農園」の見学・収穫体験(トマト・露地野菜)

POINT

詳細は「クボタ株主クラブ」のイベント欄をご参照ください。

クボタ株主クラブ

<https://shareholders.kubota.co.jp/>



スマートフォンでも
ご登録いただけます



株式事務手続きのご案内

お手続きをご利用される場合は、お取引のある証券会社、または下記の株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)までお問合せください。

1. 当社株主総会資料の書面郵送をご希望の場合は、お手続きが必要です。

法改正により株主総会資料の電子提供制度が開始されたため、2023年より上場会社の株主総会資料は原則として電子化されました。新たに書面郵送でのお受け取りをご希望の株主様は、**2024年12月31日**までにお取引のある証券会社または株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)を通じて、「書面交付請求」のお手続きをしていただく必要があります。

2. 配当金のお受け取りは、便利な口座振込をご活用ください。

配当金のお受け取り方法は以下の3つあり、下記の**2**または**3**をお選びいただくことで、**お支払開始日当日のお受け取りが可能になります。**

また、**お支払開始日から満3年を経過した配当金は、お受け取りができなくなりますので、お受け取り忘れのない口座振込を、ぜひご活用ください。**

1 郵便局等でのお受け取り

「配当金領収証」を持参し、
郵便局等で受け取る方法

2 証券口座でのお受け取り

各証券会社の証券口座で
受け取る方法

3 銀行口座等でのお受け取り

ご指定の金融機関口座で受け取る方法
(個別銘柄ごとのご指定も可能です)

三井住友信託銀行(株)
お問合せ先

☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・休日を除く)
【郵便物送付先】〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部

SNSのご案内

当社は、様々なソーシャルメディアを通じて積極的な情報発信をしています。
ぜひご覧ください。



YouTube
<https://www.youtube.com/user/TheKubotachannel>



Facebook
<https://www.facebook.com/KUBOTACorporation/>



LinkedIn
<https://www.linkedin.com/company/kubota/>



なお、当社のソーシャルメディアポリシーは
以下からご覧いただけます。

<https://www.kubota.co.jp/socialmedia.html>

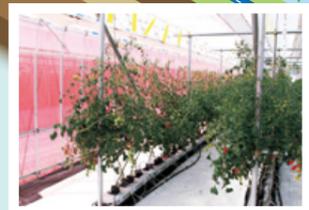


クボタのソリューションが拓く、私たちの未来

クボタは、人々の暮らしに欠かせないさまざまな製品（モノ）を世に送り出すことでそれぞれの時代における社会課題の解決に貢献してきました。

しかしながら、時代とともに新たな課題が次々と生まれており、クボタグループも製品（モノ）の販売からソリューション（コト）プロバイダーへの変貌が求められています。

今回の特集では、農業や自治体の人手不足を解決するために提供している「水の管理」のソリューションに焦点を当て、それぞれの課題の解決に寄り添ってきた人々の生の声をお届けいたします。



灌水施肥のようす

① ゼロアグリ 製品紹介映像

<https://www.youtube.com/watch?v=8-8seA1KOow>



② ほ場配水制御システム「KiDAS」製品紹介映像

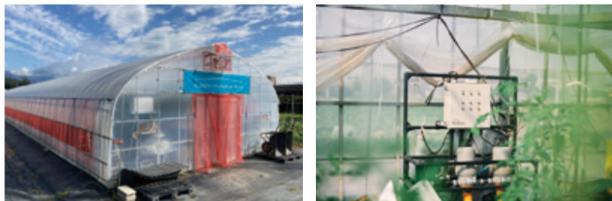
https://agriculture.kubota.co.jp/product/movie_redirect/water0001/



ご参考
動画

① ZeRo.agri (AI灌水施肥システム)

当社の子会社である(株)ルートレック・ネットワークスが提供するAI灌水(水やり)施肥システムZeRo.agri (以下、ゼロアグリ)は、ほ場の栽培環境データに基づいてAIが最適な「水/肥料の量」「灌水施肥タイミング」を判断し、自動実行するソリューションです。今回はオープンイノベーション型実証ほ場「Kubota Incubation Farm」にて、このゼロアグリの実証に携わっている(株)クボタ ビジネスインキュベーション部担当課長の西村さん、(株)関東甲信クボタ 新規事業部農場長の竹内さんに、現場の声や今後の展望について話を伺いました。



Kubota Incubation Farm

ZeRo.agri

ゼロアグリの特徴、導入効果について

竹内さん

水管理は農作業において一番気をつける必要がある作業の一つです。しかしながら「水やり3年」という言葉があるように、最適な水管理には長年の経験が必要でした。例えば夏場などはわずか30分の間で急激に気温が変化してしまうこともあるので、作物が萎れてしまわないよう常にほ場の様子に注意しておかなくてはなりません。しかしゼロアグリを使ってからは、土壌の水分量や肥料濃度、日射量等の変化などに対してゼロアグリが自動で最適な制御をしてくれるのでこの不安から解放されています。

西村さん

ゼロアグリを導入した就農40年以上のベテランの農家さんからは、これまで動に頼っていた作物の状態の判断を、ゼロアグリで見える化した各種データと紐づけて行えるようになった点を高く評価いただいています。各種データの確認にはWEBアプリを使いますが、このアプリを使えば遠隔地にながらゼロアグリを設定を変更することも可能です。定期的に見回りに行かないとセンサーエラーなどの不具合発見が遅れる、とご心配さ

れる方もいらっしゃると思いますが、LINEでアラートを受け取ることができるので、異常に対してもすぐに対応できます。

竹内さん

ゼロアグリを導入したことで、水管理にかけていた時間を他の作業に充てることができました。実際に関東甲信クボタは6棟のビニールハウスを約3人で運営しています。他の農家さんからどうやって運営しているのか?と驚かれることもあります。

西村さん

省力化によって生じた余力を投入することで、さらなる経営規模の拡大を狙う、ということも可能だと思います。

竹内さん

また品質向上にも効果があります。例えばトマト栽培では水管理に問題があると裂果などが生じることがありますが、ゼロアグリで適切な灌水施肥を行うことでこのような問題が減り、出荷できる収穫物の割合や秀品率が上がった事例もあります。

西村さん

AIによる適切な施肥量の判断により、肥料の使用量を削減できたという声もありました。これはコストダウン効果だけでなく、肥料の過剰投入を防ぐことになるので環境負荷の低減にもつながります。

今後の展望について

竹内さん

自社ほ場での取り組みに関しては、生産性の向上、作物のブランド化を行い、さらなる収益性の向上を目指しています。そして、この関東甲信クボタでの取り組みを一つの経営のモデルケースとし、生産者に展開することで支援につなげていきたいと考えています。

西村さん

施設園芸を持続可能にするためには、「人手への高い依存度の解消」や「多種多様な作業に対する栽培スキルの獲得」などの農家さんの課題を1つずつ解決していく必要があります。我々は、Kubota Incubation Farmでの社外パートナーとの共同実証を進め、これら課題に対するソリューションの創出を続けていきます。

NEWS 7月16日 ラインアップが拡充されました!

灌水施肥システムのエントリーモデル「ゼロアグリLite」と、ハウス内の統合環境制御システム「ゼロアグリPlus」の提供を開始し、より多くの農業生産者のご要望にお応えします。



② ほ場配水制御システム「KiDAS」

クボタは、山形県庄内平野の南部地区 庄内赤川土地改良区へ、農地の用水などを管理する「ほ場水管理システム「WATARAS」」によるほ場の自動水位制御と、ほ場とポンプやゲートなどの水利施設を連携させた「ほ場配水制御システム「KiDAS」(KUBOTA Irrigation and Drainage Automation System)」を導入しました。

今回導入した湯野沢地区は、水稲と特産品のえだまめを栽培している農家が多く、えだまめの収穫と水田の水管理時期が重なると、多大な労力を要することが課題となっていました。

国営ICTモデル事業としてKiDASの導入を決めた庄内赤川土地改良区の大井さんは、「手で給水栓を開け閉めする必要がなくなり、夜中や大雨の日などにほ場に駆けつける必要もなくなった」「若い世代でも面倒な水管理がスマホなどで簡単に操作確認できるので、就農してくれる若い人が増えてきた」など、歓迎の声が多いと話します。また、用水路から水を汲み上げる揚水場と連携することで必要な量を効率的に送水するため年間9万㎡の節水が可能となり、電気代の削減にも繋がっています。

近年の就農人口の減少や電気料金高騰もあり、本事業に興味を持った見学の依頼が多く寄せられており「今後、スマート農業は広がっていくと思います。この地域は稲作が中心ですので、稲作が衰退することで、地域全体の活力が下がります。このような取り組みを通して農地を守り、地域農業の発展につなげていければ」と力強く語ってくれました。



スマートフォンによる遠隔操作で水管理を行う



ほ場水管理システム「WATARAS」



庄内赤川土地改良区 工務第一課 (左)課長 佐々木 正秀さん (右)技師 大井 大輝さん

③ 施設管理の総合プラットフォーム「BLUE FRONT」

クボタは、2023年8月より子会社であるクボタ環境エンジニアリング(株) (以下KKE) が管理する太田市中央第二浄化センターに「KSIS BLUE FRONT」を導入し、その運用を開始しました。このシステムは運転・維持管理業務の様々なデータをデジタル化して一元管理することで、施設管理を効率化する総合プラットフォームです。

今、地方自治体では人口減少による財政難とともに施設を管理する人材不足が大きな課題となっております。自治体との連携事業を推進する岸田さんは、「KSIS BLUE FRONTは技術者の退職にともなうノウハウ継承や人材不足といった課題を解決する切り札になりえる」と話します。

また省力化の実現だけでなく、現場担当者の労働環境の改善にも貢献しています。

この浄化センターの管理責任者である渡辺さんは「これまで、大雨や地震など災害が発生すれば夜間であるうが現場確認に行かなくてはなりませんでしたが、今は事務所や自宅から被害状況を確認でき、優先度を判断して対応することができます」と話します。

また、四足歩行ロボットを活用した自動巡回点検の実証実験も開始しています。「四足歩行ロボットのカメラから取得したデータをKSIS BLUE FRONTで活用することでさらなる業務の効率化、省人化が可能になる」とKKE維持管理部長である森さんは期待を寄せます。

クボタグループは、これまで培ってきた維持管理や運営業務のノウハウに最先端のICTとDX技術を積極的に組み合わせることで、効率的で最適な事業運営を実現する持続的な社会インフラの構築に貢献してまいります。



浄水場点検のようす



BLUE FRONTを活用した所員の情報共有のようす(データ化され正確性が向上した)

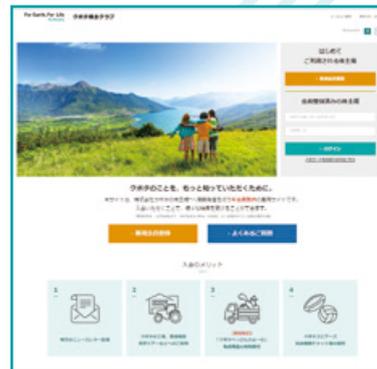
2024年
9月より

「クボタ株主クラブ」がはじまります!

クボタ株主クラブとは、株式会社クボタの株主様※へ
情報発信を行う**年会費無料**の専用サイトです。

入会いただくことで、様々な特典を受けることができます。

※毎年6月末、12月末時点で、当社株式を1単元(100株)以上保有されている株主様が対象



クボタ株主クラブ 入会のメリット

1

毎月のニュースレター配信



2

クボタの工場、関連施設
見学ツアーなどへのご招待



3

クボタグループ従業員専用ECサイト
「クボタベっぴんふあーむ」
取扱商品の特別販売



4

クボタスピアーズ
試合観戦チケット等の優待



ご登録はこちらから



スマートフォンからもアクセスできます

<https://shareholders.kubota.co.jp/>

新規会員登録 から
ご登録ください!

